回会報

150　号

新日本美術協会

事務局
千葉県柏市大津ヶ丘
3-17-17-401
森屋治三方
TEL04-7191-6760

編集委員
小高峯夫
富岡ネム
大石　亨
四方公子
早田美智子
原稿常時募集
次号平成27年8月予定

新体制にむけて

桜の花が開く頃、今年の関東地方は肌寒い日が何日か続いた。花曇りというよりみぞれも降る寒さであった。

新日美委員会では中尾会長が逝去した後の体制をどうするか議題となった。当面の措置として会長代行を決めることが対外的にも不可欠である。幸い三月の委員会で森屋事務局長がひきうけてくれることになり、東京都美術館への書類・手続き等は支障なく済んでいて継続的に使用が認められている。

新日美展三十九回展開催までには新しい体制、つまり新代表と新事務局長の選出、そして今まで事務局長に編重していた業務を分担する体制に変えなければならないというのが委員大方の認識である。

このため委員会では会則を改定することを決め検討に入ることになったが、検討する者を誰にするか積極的に手を挙げる者がなく、結局事務局長判断で数名が当たることになり、検討のためのたたき台も事務局長が作ることになった。これだけのことを決めるのに、かなりの時間を要している。その都度事務局長に負担をかけている。

当会のみならずどの美術団体も高齢化が進み、知らずのうちに沈静化しているようだ。新日美は絵画・工芸を創造するクリエイター集団である。常に前進しなければならず、気持ちだけは上向きでなければならないと思う。遅くならないうちに会則改正案が審議・決定され、新体制を整え、十月の第三十九回新日美展は新たな気持ちで臨みたいものである。(おだか)

京都巡回展

京都支部　四方公子

桜だよりもそろそろかな・・・と思っているうちに満開となり　度々の雨が気になりました。もう少しの間綺麗なままでと願ったり少しでも巡回展を見に来て下さる時に、気分良くして巡回展を見て頂きたく桜も散らないようにと勝手な思いをしながら、第三十八回巡回展を迎えました。

会場の京都府京都文化博物館は近頃益々話題豊富な展示で人気を集めています。そんな好条件の会場で巡回展を開催できることは何よりの喜びです。

会場設営も一段と映えて、作品を一層引き立てているように感じ、嬉しい事です。

平成27年3月24日第38回新日美京都巡回展テープカット

期間:平成27年3月25日～29日
会場:京都府京都文化博物館
主催:新日本美術協会
後援:京都府教育委員会・京都市教育委員会・京都新聞

今回　巡回展の会場に来られなかった方々も　是非次回は一年の計画の中に入れて頂きたいです。そして又違った会場で自分の作品を見て　色々次作の参考や刺激にして頂き制作の意欲に結びつく様　願っています。

委員コラム

二人の女教師

鳥沢むつみ

長く人生をやっていると、時として思いがけないことに出会うものです。

以前、中学校の教師を退職後、旅行や趣味に余生を楽しんでいた二人の女性に、各々水彩と油彩を指導する縁を持ったことがありました。二人は同じマンションの四階と六階に住んでおり、一人はバツ一でしたが独身同志で親友でした。教師であっただけに、呑み込みが早く教えがいのある生徒でした。指導終了後は、昼食が用意されていて、三人でのおしゃべりしながらのデザートも楽しくて、私にとってこの日は仕事ではなく、ピクニックのようなワクワクする一日でした。

あっという間に上達して、二回の二人展も教え子たちが大勢見えて大盛況でした。

バツ一のS先生は、糖尿病の持病があって合併症に悩んでいましたが、体調の良い日が続いたある日、久しぶりに先生二人での海外旅行の計画を立てました。シニアむけのゆったりデラックスの長旅で、絵の方はその間休みという事になりました。私は、土産話を楽しみにしていたのですが、それは結局実現しませんでした。

S先生ではないもう一人のO先生がマンションから飛び降り自殺をしてしまったのです。後でS先生から聞いたのですが、今まで二回もうつ病に依る自殺未遂があり、その都度S先生が発見して事なきを得たのだそうです。全くそんな事は知らなかったので、私もショックでした。

旅行の近づいたある日、SさんはOさんの様子がおかしいと感じたので旅行はキャンセルし、六階の自宅にOさんを招き寝起きを共にすることにしたのでした。

毎日寝ずの番をする訳にもいかず、そんなある夜、六階から飛び降りてしまったのです。夜中に警察からの電話で起こされ、寝ているはずの隣の部屋を覗いて、ベランダのカーテンが風に揺れているのを目にした時は失神しそうだったと言っていました。私は慰めの言葉もなく、電話の向こうから漏れてくる啜り泣きを、受話器を握りしめて聞くばかりでした。

「Oさんにとって鳥沢先生との絵の時間が至福の刻だったのよ」とS先生にしみじみ言われて、私も涙がこぼれました。

あの夢のような日々を今も懐かしく切なく思い出しています。